

令和 8 年度  
長野市立小・中学校

# キャリアアップ研修Ⅱの手引

(教諭・養護教諭)

平成 30 年度より「中堅教諭等資質向上研修」を  
「キャリアアップ研修Ⅱ」と名称変更しました

長野市教育委員会

# 目 次

キャリアアップ研修Ⅱの目的	1
---------------	---

第一部 長野市立小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ実施要領	2
-----------------------------	---

## 第二部 研修の全体計画と実施

1 キャリアアップ研修Ⅱの基本方針	4
2 実施体制	4
3 日程等	4
4 主催者一覧	5

## 第三部 校外研修の計画と実施

1 研修①「スタート研修」	6
2 研修②「中堅教員の資質能力」	6
3 研修③「教育の情報化」選択研修	6
4 研修④「教師力向上研修」	6
5 研修⑤「授業研究（授業公開・研究会）」	6
6 研修⑥「授業研究（授業参観・研究会）」	7
7 研修⑦「社会体験研修」	8
8 研修⑧「キャリア教育研修」	8
9 研修⑨⑩「選択研修Ⅰ・Ⅱ」	8
10 研修⑪「まとめ」	9
11 研修⑫「養護教諭教職専門研修」	9

## 第四部 校内研修の計画と実施

1 校内研修の概要	10
2 対象者カードの作成に当たって	11
3 校内研修計画立案に当たって	12

## 第五部 提出書類

1 提出書類記入上の注意及び書類提出に係る留意事項	15
2 キャリアアップ研修Ⅱ関係書類の提出及び校内保管について	17

～資料～ データは校支援ライブラリからダウンロードしてお使いください

資料 キャリアアップ研修Ⅱ校内研修実施メモ	18
資料 社会体験研修 依頼・お礼文例	19
資料 学習指導案例	21

# キャリアアップ研修Ⅱの目的

## 1 研修の目的

- (1) 教員の使命を再認識し、これまでの教員経験を多様な視点から見返して、意識の変革を図る。
- (2) 教科指導や生徒指導において、専門的な知識と技能の深化を図る。
- (3) 社会の変化や地域のニーズをふまえた教育実践ができるように、教員としての視野を広げる。

## 2 研修の内容

「見返す」… 教育実践を見返す。 自己をみつめる。

「変える」… 自己課題を明確にし、新たな考え方や見方をもって取り組む。

「深める」… 専門的な知識や技能の深化を図る。

「広げる」… 地域や社会に目を向けた視野を広げる。

### 校外研修

- キャリアアップ研修Ⅱの意義・自己課題の明確化
- 教科等指導力・生徒指導力・学級経営力の向上
- 自己課題をもとにした授業実践
- これまでの子ども観の見返し、子どもに寄り添った支援の具体
- ICTの効果的な活用と情報モラルの研修
- キャリア教育研修
- ミドルリーダーを目指した研修
- 社会体験研修
- 確かな教育理念に基づいた研究、修養

### 校内研修

- 「実践を通して学ぶ」
  - ・自己課題の明確化と追究
  - ・同僚性を生かした教育の創造
  - ・体験的研修を生かした教育実践
  - ・ミドルリーダーとしての役割の自覚等



- 「研修のまとめ」  
今後の自己の研修課題の明確化

## 第一部

### 長野市立小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ実施要領

#### (1) 趣旨

この要領は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の第59条(中核市に関する特例)に基づき、採用から10年目に達した教諭(養護教諭を含む)に対する研修(以下「キャリアアップ研修Ⅱという。')の実施に関して必要な事項を定めるものとする。

#### (2) 対象者の定義

キャリアアップ研修Ⅱの対象者(以下「対象者」という。)は、公立の小学校、中学校(以下「公立学校」という。)において、採用から原則10年目に達した教諭(養護教諭を含む)をいう。また、次の各号のいずれかに該当する者は除く。

(ア) 臨時的に任用された者

(イ) 他の任命権者が実施するキャリアアップ研修Ⅱを受けた者

(ウ) 地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律第3条第1項若しくは第2項、第4条または第5条の規定により任期を定めて採用された者

(エ) 指導主事、社会教育主事その他教育委員会において学校教育または社会教育に関する事務に従事した経験を有する者で、任命権者が当該者の経験の程度を勘案してキャリアアップ研修Ⅱを実施する必要があると認めるもの

(オ) その他、長野県教育委員会および長野市教育委員会が認めた者

#### (3) 実施主体

長野市教育委員会(以下「市教育委員会」という。)が実施する。

#### (4) 推進委員会の設置

市教育委員会は本研修が円滑に実施できるよう、また、本研修の計画及び実施に伴う諸問題を協議するため市教育委員会が設置する推進委員会をおく。

#### (5) 研修の猶予

市教育委員会は、対象者がキャリアアップ研修Ⅱに参加することが著しく困難と判断される場合は、当該対象者の本研修を猶予することができる。

#### (6) 研修内容等

キャリアアップ研修Ⅱの内容は、次頁「別表」のとおりとする。(令和8年度改定)

#### (7) 研修計画等

(ア) 対象者が所属する公立学校の長(以下「校長等」という。)は、対象者ごとにキャリアアップ研修Ⅱ対象者カード(評価案)及び研修計画案を作成し、市教育委員会に提出する。

(イ) 市教育委員会は、校長等から提出されたキャリアアップ研修Ⅱ対象者カード（評価案）及び研修計画案に基づき、対象者ごとに研修計画書を作成する。

(ウ) 市教育委員会は、キャリアアップ研修Ⅱの実施状況を把握し、校長等に適切な指導・助言等を行う。

(8) 研修報告等

校長等は、研修終了後、対象者ごとに任命権者から示された研修報告書を作成し、市教育委員会に提出する。

(9) その他

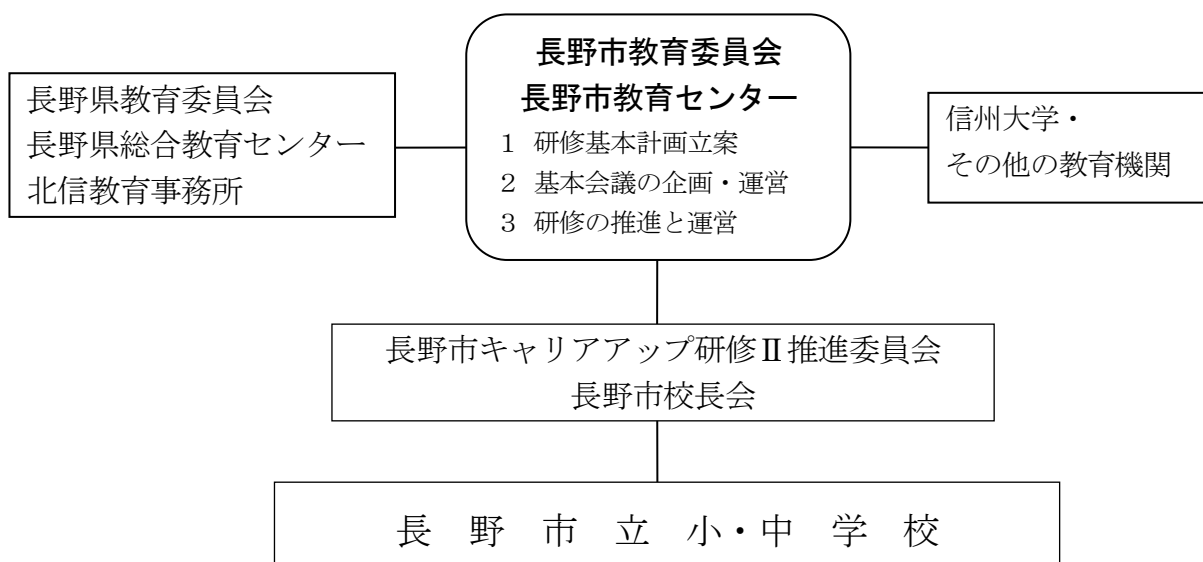
(ア) この要領のほか、キャリアアップ研修Ⅱに関する必要な事項は、市教育委員会が別に定める。

(イ) 市教育委員会は作成した研修者名簿および修了者名簿・猶予者名簿を県教育委員会に提出するものとする。

「別表」

研修内容		場所	日数
校外研修	○教科等指導研修	市教育センター 市内小・中学校 地域の研修受入事業所 等	年間 6 日（教諭） 年間 4 日（養護教諭）
	○「中堅教員に求められる資質能力」についての研修		
	○生徒指導研修		
	○情報教育研修		
	○社会体験研修		
	○キャリア教育研修		
	○選択研修 等		
校内研修	○自己課題の明確化と追究	在勤校	年間 20 日（教諭） 年間 5 日（養護教諭）
	○同僚性を生かした教育の創造		
	○体験的研修を生かした教育実践		
	○中堅教員としての役割の自覚		

(10) 長野市立小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ実施系統図



## 第二部

### 研修の全体計画と実施

#### 1 キャリアアップ研修Ⅱの基本方針

- (1) 採用から10年目以上になる教員に、自校のカリキュラム・マネジメントに資することを意識して設定した研修テーマ（自己課題）を基に研修を実施する。
- (2) 実施期間は10年目、11年目のいずれか1年間とする。
- (3) 日常の授業実践を基盤とするとともに、「しなのきプランⅡ」を意識した実践的研修を実施する。
- (4) 社会の変化や地域のニーズをふまえた教育実践ができるよう、より専門的な視野と広い視野から研修を実施する。

#### 2 実施体制

長野市教育委員会（長野市教育センター）が長野市校長会ならびに信州大学やその他の教育機関と連携、調整を図って実施する。

#### 3 日程等

研修③、⑨、⑩で選択した長野市教育センターの講座については、受講者本人が「Plant」に登録する。  
それ以外の研修は、教育センターが一括で登録する。

No.	講 座 名	日 時・場 所	研 修 の 概 要
2411 共通	①スタート研修 (0.5 日)	4 月 20 日(月) 14：10～16：50 ・長野市教育センター	1 中堅教諭等資質向上の意義（講義） 2 求められる教師力と自己課題の明確化 （講義・演習）
2421 共通	②中堅教員の資質能力 向上研修 (0.5 日)	5 月 22 日(金) 14：10～16：50 ・長野市教育センター	1 非違行為防止、スクールコンプライアンスについて（講義・演習） 2 特別支援教育の理解と生徒指導 （講義・演習）
2431 教諭のみ	③「教育の情報化」選択研修 (0.5 日)	6 月～8 月 ・各講座の期日による	長野市教育センター研修講座 「5111, 5112, 5141」から1つ選択
2441 教諭のみ	④教師力向上研修 (0.5 日)	9 月 11 日(金) 14：10～16：50 ・長野市教育センター	1 ミドルリーダーとしての教師のあり方 （講義・演習） 2 教科等横断的な視点でのカリキュラム・マネジメント（講義・演習）
2451 共通	⑤授業研究 (授業公開・研究会) (0.5 日)	8 月～12 月(日程調整) ・各在籍校	自己課題に基づく授業改善を目指した授業公開と研究会 ※養護教諭は⑤⑨⑩のうち0.5日×2を選択
2452 教諭のみ	⑥授業研究 (授業参観・研究会) (0.5 日)	8 月～12 月(日程調整) ・各公開校	他校のキャリアアップ研修Ⅱ対象者、長野市教育センター研究委員の公開授業から1つを選択して参観、授業研究会への参加
2511 共通	⑦社会体験研修 (1 日)	夏期休業中 1 日間 (日程は各自で調整) ・各事業所	異業種での接遇研修 1 日間 研修の目的を踏まえ、研修先の事業所（長野市内）を選定し、実施する。交渉、お礼状等は、学校長を通して本人が行う。

2615 教諭 のみ	⑧キャリア教育研修 (0.5 日)	11 月 26 日(木) 14 : 10～16 : 50 ・長野市教育センター	持続可能な社会づくりに向けた キャリア教育(講義・演習)
2611 2612 教諭	⑨選択研修Ⅰ 2611 (0.5 日)	「1 学びの改善を図るための研修」 講座から 1 つ選択	<u>※1 選択可能な長野市教育センター研修講座は以下の通り</u> 「1 学びの改善を図るための研修」 「2 健康・安全・危機管理にかかわる研修」 「3 教育課題に対応した研修」 ○詳細については、P8 参照
	⑩選択研修Ⅱ 2612 (0.5 日)	「※1 選択可能な長野市教育センター研修講座」、または「教育会等、校外の研修講座」から 1 つ選択	
2611 2612 養護 教諭	⑨選択研修Ⅰ 2611 (0.5 日)	「2 健康・安全・危機管理にかかわる研修」講座から 1 つ選択	
	⑩選択研修Ⅱ 2612 (0.5 日)	「3 (1) 子どもに寄り添う理解と支援にかかわる研修」講座から 1 つ選択	
2629 教諭 のみ	⑪まとめ (0.5 日)	1 月 21 日(木) 14 : 10～16 : 50 ・長野市教育センター	1 教育長職務代理者の講話 2 私の授業づくり(演習) 3 未来の私へ(演習)
養護 教諭 のみ	⑫養護教諭教職専門研修 (1 日)	1 月 26 日(火) 9 : 45～16 : 00 ・長野県総合教育センター	1 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援(講義) 2 キャリアアップ研修Ⅱ報告会(演習) 3 これからの 10 年(演習)
校内研修 教諭 20 日 養護教諭 5 日		学校長の指導のもと、自己課題追究テーマに基づいた教材研究や指導方法に関する研修、授業改善のための研究授業による研修等を、校長・教頭・教務主任等の指導助言を得ながら実施する。 先輩教員からの学び(授業を見せてもらう、見てもらい助言をもらう等)、若手教員の研究授業の企画・運営等、校内での学び合いを積極的に実施する。	

○令和 7 年度以前(中堅教諭等資質向上研修も含む)の猶予者は、令和 8 年度キャリアアップ研修Ⅱ対象者と同一の研修を受講する。

#### 4 主催者一覧

研修名	主催者	実施場所
①スタート研修	長野市教育委員会	長野市教育センター
②中堅教員の資質能力向上研修	長野市教育委員会	長野市教育センター
③教育の情報化選択研修	長野市教育委員会	長野市教育センター
④教師力向上研修	長野市教育委員会	長野市教育センター
⑤授業公開・研究会	長野市教育委員会	市内小・中学校(在勤校)
⑥授業参観・研究会	長野市教育委員会	市内小・中学校(授業会場校)
⑦社会体験研修	長野市教育委員会	市内事業所
⑧キャリア教育・E S D 研修	長野市教育委員会	長野市教育センター
⑨⑩選択研修Ⅰ・Ⅱ	長野市教育委員会・各教育会等	長野市教育センター等
⑪まとめ	長野市教育委員会	長野市教育センター
⑫養護教諭教職専門研修	長野県教育委員会 保健厚生課	長野県総合教育センター

## 第三部

### 校外研修の計画と実施

#### 1 研修①「スタート研修」(教諭・養護教諭 共通)

教育における現状や課題について理解を深め、自己課題について考える

#### 2 研修②「中堅教員の資質能力向上研修」(教諭・養護教諭 共通)

スクール・コンプライアンス、特別支援教育の視点に基づいた生徒指導について理解する

#### 3 研修③「教育の情報化」選択研修(教諭のみ)

選択研修講座を通して「教育の情報化」に関する専門性や指導力の向上を図り、今後の授業実践に生かす

※長野市教育センター研修講座「5111, 5112, 5141」から1つ選択し、受講する。

※選択した講座については、受講者本人が「Plant」に登録する。

※「Plant」で申し込む際は、「申し送り事項」欄に「キャリアⅡ」と入力する。

#### 4 研修④「教師力向上研修」(教諭のみ)

教科指導や生徒指導の力をさらに身につけ、これまでの自分の実践を見返しながら、専門性を高める

#### 5 研修⑤「授業研究(授業公開・研究会)」(教諭・養護教諭 共通) ※養護教諭は研修⑤⑨⑩から2つ選択

自己課題に基づいて授業を公開し、自ら実践した授業を振り返ることを通して、新たな課題をもつ

(1) 公開する授業について ※詳細については、研修①「スタート研修」の際に扱う

ア 公開する授業は、次の「選択可能な教科等」から選ぶ。その際、自己課題を踏まえるとともに、「しなやかなプランⅡ」で掲げている「自ら学び 共に育つ」を意識した授業を構想する。なお、全校研究授業や対外的な研究授業と兼ねることもできる。※次頁ラインボックス参照

【選択可能な教科等】

国語・社会・算数・数学・理科・生活・音楽・図画工作・美術・保健体育・技術・家庭・外国語活動・英語・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・生活単元(特別支援)

※養護教諭は学級担任とのT・Tを基本とする。

イ (5月中旬) 対象者は、①「スタート研修」の際に説明する「授業公開希望調査票」に、公開を希望する教科・学年・単元・日時を記入し、校支援の文書管理にて回答する。ただし、授業公開日は、学校長または教頭、研究主任等が参観可能な日とし、時間は、授業公開と研究会が連続した時間(例 3校時:授業公開 4校時:研究会)になるように設定する。

ウ (6月中旬) 長野市教育センターで期日の調整を行い、「授業公開一覧表」を対象者所属校へ送付する。

(2) 授業研究会について

ア 授業公開直後に、学校長または教頭、研究主任等も同席し、参観者の感想・意見を交換する研究会の時間(45分～50分程度)をとる。

イ 助言者は、市教委指導主事または市内小中学校校長または教頭が務める。

(各学校から助言者への「派遣申請書」の送付は不要)

ウ 授業研究会の進め方、助言者等の詳細については、長野市教育センターから授業公開校へ通知を出す。



エ 当該校の教員の授業参観や研究会参加の可否は学校長の判断による。

(3) 学習指導案について

- ア 授業者は、自己課題に基づいた学習指導案を作成し（詳細は研修時に説明し、ひな形を配布する）、授業公開日の5日前（土・日・祝日は除く）までに、①他校参観者（7月上旬に他校参観者一覧名簿を送付）、②市教委担当指導主事、③長野市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当者に校支援の個人メールで送付する。
- イ メールの件名は「受講者番号【長野市キャリアアップ研修Ⅱ】〇〇小（中）学校△△（氏名）」とする。なお、座席表や資料は当日配布とし、座席表は授業研究会後に回収する。
- ウ 校内参観者へは、対象者から直接、学習指導案を配布する。

(4) 授業の振り返りレポートについて

- ア 授業者は、公開した授業について振り返り、成果と今後の課題を端的にまとめ、授業後2週間以内にレポート（A4サイズ1枚 様式自由）を作成し、市内メール便にて長野市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当者宛に送付する。

全校研究授業等とキャリアアップ研修Ⅱの公開授業を兼ねる場合は、以下の点に留意する

◎ 全校研究授業や市指定人権など 市教委指導主事の派遣を伴う研究授業と兼ねる場合

- ・年度当初、指定された期日までに「指導主所要請計画表」「派遣申請」を学校教育課に提出する。①「スタート研修」の際に説明する「公開授業希望調査票」には、派遣申請済と回答する。
- ・授業研究会の進め方等については、対象者の所属校からの派遣申請書により実施する。
- ・学習指導案の形式については、キャリアアップ研修Ⅱの中で配布するひな形に準ずる必要はない。ただし、対象者の自己課題を踏まえた内容になるよう意識しながら作成する。
- ・研修⑥「他校からの対象者による公開授業参観、研究会への参加」は行わないことを基本とする。学習指導案の送付先は、①市教委担当指導主事、②長野市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当者となる。

◎ 対外的な研究授業（県教委指定研究授業など）市教委以外が主催する研究授業と兼ねる場合

- ・①「スタート研修」の際に説明する「公開授業希望調査票」に必要事項を記入して回答する。
- ・学習指導案の形式については、キャリアアップ研修Ⅱの中で配布するひな形に準ずる必要はない。ただし、対象者の自己課題を踏まえた内容になるよう意識しながら作成する。
- ・研修⑥「他校からの対象者による公開授業参観、研究会への参加」は行わないことを基本とする。学習指導案の送付先は、長野市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当者となる。
- ・公開当日については個別の対応となるため、市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当指導主事に連絡する。（対応例：市教委指導主事が公開授業及び研究会に参加）

6 研修⑥「授業研究（授業参観・研究会）」（教諭のみ）

他の対象者の授業を参観することを通して、新たな課題をもつ

【推進日程】

- ・（6月中旬）対象者の在籍校へ「キャリアアップ研修Ⅱ対象者及び長野市教育センター研究委員授業公開一覧表」（公開日時・教科等・学年・単元）と「参観希望調査用紙」が送付されるので、対象者は、「参観希望調査用紙」に必要事項を記入して、校支援の文書管理にて回答する。
- ・（7月上旬）参観人数の調整後、「参観者決定一覧表」が対象者の在籍校へ送付される。
- ・（授業公開の5日前まで）参観する授業の学習指導案は、授業者から校支援の個人メール宛に送付される。

## 7 研修⑦「社会体験研修」(教諭・養護教諭 共通)

異業種での接遇研修を通し、広い視野から自己課題を把握し、今後の研修に生かす

(1) 期日・日数 原則として夏期休業中・1日間

※昼食を挟む1日研修を基本とする。研修時間帯が勤務時間と異なる場合は、勤務校の校長と相談し、勤務時間の割り振り変更を行う。

(2) 場 所 異業種かつ接遇研修が可能な市内にある事業所

(3) 【推進日程】 ※詳細については、5月の研修で説明

(研修後～) 目的と期日を踏まえた上で体験研修を行う事業所を選定し、実施日を決定する。なお、土・日や休日に実施する場合は、勤務の振替や代休を伴うので、学校長と十分に相談すること。社会体験研修の交渉、依頼については学校長を通じて、文例(資料参照)を参考に受講者本人が行う。

(参考) 過去に体験研修を受け入れていただいた事業所

ホテルなどの宿泊施設、スーパーマーケット、カフェ、美容室、障がい福祉サービス事業所、〇〇販売店、図書館 など

(～6月末) 「社会体験研修実施計画書(様式5)」を作成し、6月26日(金)までに、校支援文書管理機能にて長野市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当指導主事に送付する。

(夏期休業中) 1日間実施

(実施後) 社会体験研修終了後10日以内に、学校長を通じて、文例(資料参照)を参考に受講者本人がお礼状を作成し、研修場所へ送る。

社会体験研修終了後1ヵ月以内に「社会体験研修実施報告書(様式6)」を作成し、校支援文書管理機能にて長野市教育センターキャリアアップ研修Ⅱ担当指導主事に送付する。

## 8 研修⑧「キャリア教育研修」(教諭のみ)

持続可能な社会づくりに向けたキャリア教育について学び、中堅教員に求められる力量の向上を図る

## 9 研修⑨⑩「選択研修Ⅰ・Ⅱ」

各分野において中堅教員として求められる力量の向上を図る

**教諭** ⑨⑩から1講座ずつ、計2講座(0.5日×2回)受講する。

**養護教諭** ⑤⑨⑩のうち、2つ選択する(「⑨⑩」や「⑤⑩」も可)。

※選択した長野市教育センターの講座については、受講者本人が「Plant」に登録する。

※「Plant」で申し込む際は、「申し込み事項」欄に「キャリアⅡ」と入力する。

教諭	⑨長野市教育センターの研修講座「1 学びの改善を図るための研修」から1つ選択して受講する。
	⑩長野市教育センターの研修講座、または教育会等、校外の研修講座から1つ選択して受講する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野市教育センター研修講座の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>「1 学びの改善を図るための研修」</li> <li>「2 健康・安全・危機管理にかかわる研修」</li> <li>「3 教育課題に対応した研修 ※5211を除く」</li> </ul> </li> <li>・教育会等、校外の研修講座の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>校長の許可を得て、各自で申し込む</li> </ul> </li> </ul>
	<b>対象例</b> 全県研究大会 信濃教育会学び創造研究会 県内外視察研修 長水同好会 委員会研究授業 夏季大学・講演会など

養護 教諭	⑨長野市教育センターの研修講座「2 健康・安全・危機管理にかかわる研修」から <u>1つ</u> 選択して受講する。
	⑩長野市教育センターの研修講座「3 (1) 子どもに寄り添う理解と支援にかかわる研修」から <u>1つ</u> 選択して受講する。

#### 10 研修⑩「まとめ」(教諭のみ)

キャリアアップ研修Ⅱでの学びを振り返り、「学び続ける教師」であるために決意を新たにす

#### 11 研修⑪「養護教諭教職専門研修」(養護教諭のみ)

キャリアアップ研修Ⅱの成果を共有し、次年度以降の自己の研修課題を明らかにすると共に、実践への意欲を高める(レポート発表あり)

※県総合教育センターホームページ：キャリアアップ研修Ⅱ養護教諭ページを参照

## 第四部

### 校内研修の計画と実施

#### 1 校内研修の概要

校内研修においては、対象者所属校の校長が指導の主体となり、対象者との面談等を通して、対象者自身が自己の課題を明確にし、それに沿った研修テーマが決定できるように支援・援助する。また、対象者に即した研修計画を立案し、年間にわたって適時、相談・助言・指導をすることにより、校内研修の充実を図る。

#### 対象者カード（様式１）・研修計画書（様式２）の作成

##### 対象者カード（様式１）の作成

校長は、対象者カードに示された項目（教職員の力量）について、対象者本人の自己評価や、教頭・教務主任等の意見を参考にして、対象者に対して助言し、それをもとに対象者の研修課題を明確にして対象者カードを作成する。

##### 研修計画書（様式２）の作成

校長は、対象者との面談等を通して、対象者の研修テーマについて把握し、対象者の研修テーマに沿った校内研修・校外研修内容を立案する。

市教育委員会は、校長から提出された研修計画案を検討し、当該校の校長に研修計画書として認める旨を通知する。

#### 研修の実施

##### 校内の相談・支援体制の確立と校内研修の充実

校長は、対象者が校外研修や体験研修を生かした授業実践、地域の人々と連携してすすめる授業づくり等の実践を発展させていくことができるように、支援体制を確立し、適時、相談・指導・助言をするとともに、校内研修の充実を図る。

#### 研修のまとめ

##### 研修報告書を作成

校長は、面談等を通して、対象者の研修の成果を確認するとともに、対象者の次年度以降の研修課題が明確になるように指導・助言をする。

## 2 対象者カード（評価案）の作成に当たって

- (1) 対象者カードの作成に当たっては、対象者本人の自己評価や以下の記入参考例を参照し、対象者個々の課題に即して作成されるよう配慮する。
- (2) 「教科等の専門性」の項目については、対象者の授業を校長・教頭が参観した上で作成されるよう願う。

【提出日 5月21日（木）】

記入参考例	項 目	内 容
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解	①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛	・常に周囲から学ぼうとしたり、熱心に教材研究に取り組んだりしている。 ・リスクマネジメントの観点から、効果的な手法を学び、校内に広げていってほしい。
B 確かな人権意識と共感力	①全ての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思い（悲しみや喜び）を感じ取る力	・児童生徒や保護者の話をよく聞き、子どもたちに寄り添った丁寧な指導・支援を心がけている。 ・児童生徒の理解、保護者との連携・協力、学校内外での人権意識について、さらに専門的に学んでいってほしい。
C 地域社会と連携・協働する力	①地域社会の発展に主体的に寄与する力 ②郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度	・地域活動で得た知識や技能、人脈を、総合的な学習の時間や学校行事に活用している。 ・子どもが主体となる学習活動を積極的に実践し、子どもたちの自己肯定感や郷土愛を育てていってほしい。
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	①知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度 ②同じ目的に向かってチームで対応する力	・分からないことや困っていることを、同僚や上司に相談し、情報共有や課題解決に努めている。 ・教育等に係る最新情報に触れ、教科会や学年会で協力しながら研究を深めていってほしい。
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	①教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力 ②グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応する力	・先輩教員の姿や校内外の研修から、教科指導、ICT活用等について、専門的な知識や技能を学んでいる。 ・自身の実践を授業公開や校内研修等で全職員に発信し、校内に広めてほしい。

- (3) 養護教諭については、以下の項目も参照して、評価内容に含める。

<p>＊養護教諭参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室経営計画の立案と実践、評価</li> <li>・子どもが主体となる健康づくりの工夫</li> <li>・学校保健目標や保健室経営目標の設定の工夫</li> <li>・保健指導に関する年間指導計画の作成と実施</li> <li>・健康づくり・人間関係づくり・体力づくり活動などの特色ある保健室経営</li> <li>・保健室環境への配慮や学級の雰囲気づくり</li> <li>・児童生徒の健康や安全に対する配慮</li> <li>・保護者や地域社会との連携と協力</li> <li>・学校内や学年内での連携と協力</li> <li>・保健指導に関する授業のねらいの明確化と基礎基本の定着への工夫</li> <li>・ICT教育を取り入れた保健指導の指導方法の工夫、意欲</li> <li>等</li> </ul>	
---	--

### 3 校内研修計画立案に当たって

校内研修計画の立案に当たっては、できるだけ具体的な実施内容を計画書に記述していくことによって、対象者自身の研修課題がより明確に意識化されていくようにする。

対象者は、別紙「私の研修計画」や「キャリアステージに応じた研修体系～学び続ける教職員を目指して～」等を参考に自己課題を確認し、校長と相談しながら「キャリアアップ研修Ⅱ計画書（案）」を作成する（校内研修については以下の参考例を参照）。

#### 校内研修実施計画の参考例①（教諭参照）

回	研修内容	時期
1	自己課題（テーマ）の設定 自己課題について、校長と教頭、教務主任等から意見を聞き、視点を明確にする。	5月
2	学級経営の充実 教務主任、学年主任等に学級活動を公開し、学級経営のあり方、方向、具体活動等を研究する。	6月
3	教科指導の充実①授業改善に向けて 同学年（教科）の先生の授業を参観し、自分の授業改善に向けての視点を得る。	6月
7	教科指導の充実②（社会 等） 社会科主任・研究主任等への授業公開やビデオに撮って自分の姿を見返すなどにより、指導法等について研究協議を行う。	7月
8	道徳指導の充実 道徳主任・研究主任等への授業公開により、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業のあり方を学ぶ。	7月
9	生徒指導①「児童・生徒理解」 しなのき児童生徒意識アンケート、作文等をもとに、教頭、生徒指導担当・スクールカウンセラー等と、心を寄せたい子について事例検討する。	8月
10	特別活動の充実（性教育 等） 教頭、保健主事による性教育カリキュラムの見直し及び充実。	8月
14	自己の研修履歴に応じた研修 自己の専門的な研修を教育活動にどのように生かすか、校長、教頭等と議論する。	9月
15	総合的な学習の時間の研究 学年の職員や教科主任と協議して、教科横断的な視点で、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、2学期以降の活動に見通しをもつ。	9月
16	地域と学校の連携 学校自己評価を行い、その結果について教頭、教務主任等と話し合い、保護者地域の考えを自己の教育活動に生かせるようにする。	10月

17	特別支援教育の実際 発達障害、インクルーシブ教育、教室内のユニバーサルデザイン等について特別支援学級担任と研究を深める。	10 月
18	教科指導の充実⑥（指導計画等の作成） 教頭、教務主任等と学習指導要領及び学習指導要領解説の理解を深め、年間指導計画作成のポイントを身につける。	12 月
19	生徒指導②「子どもに寄り添うために」 子どもの心理と対応について、基本的なカウンセリングの理論と実際について研修する。児童生徒への接し方について見直し、学年主任、教務主任等と協議する。	1 月
20	自己課題の見直し 自己課題の達成状況を振り返り、校長、教頭と協議し報告書を作成する。	2 月

#### 校内研修実施計画の参考例①（養護教諭参照）

回	研修内容	時期
1	自己課題（テーマ）の設定 自己課題について、校長・教頭等の意見を聞き、視点を明確にする。	5 月
2	保健管理の充実 教職員等の協力を得て、保健管理のあり方、方向、具体活動等を研究する。	6 月
3	保健指導の充実 担任等と協力して健康の保持増進に向けた、基礎・基本の確実な定着を図り、実践化につながる指導のあり方を学ぶ。	7 月
4	児童生徒指導「子どもと教師」 子どもの心理と対応について、基本的なカウンセリングの理論と実際について研修する。児童生徒への接し方について見直し、学年主任、教務主任等と協議する。	10 月
5	自己課題の見直し 自己課題の達成状況を振り返り、校長、教頭と相談し報告書を作成する。	2 月

#### 校内研修実施計画の参考例②（教諭参照）

テーマ：「子どもと共に創る授業」への改善をめざし、基礎基本の確実な定着を図る学習指導はどうあったらよいか。

回	研修内容	時期
1	問題点の把握と自己課題の設定 自分の授業を公開するなどして振り返り、先輩教師や同僚とともに授業分析をする。	5 月

2	問題点の整理と改善への視点をもつ 自分の授業の分析から、授業改善への課題を洗い出し、改善点を明確にする。	6月
3	校内での授業参観（自己課題と関連させて） 先輩教師や同僚の授業を参観するなどして、共に授業分析をする。	6月
7	授業改善のための文献や指導案等の資料収集 多様な文献や実践事例、指導案などの資料から、授業改善のための方法・工夫などを調査するなどして、自分の授業改善の参考とする。	7月
8	校内授業研究会（5年 算数） 先輩教師や同僚に呼びかけて、授業公開をするなどして授業を参観してもらい、「子どもと共に創る」という観点から授業分析を行い、成果と課題を明らかにする。	8月

#### 校内研修実施計画の参考例Ⅱ（養護教諭参照）

回	研修内容	時期
1	問題点の把握 普段の保健室の様子について情報共有し、先輩教師や同僚と共に分析をする。	5月
2	問題点の整理と改善への視点をもつ 自分の保健室経営の分析から、課題を洗い出し、改善点を明確にする。	6月
3	改善のための文献や資料の収集 多様な文献や実践事例などの資料から、改善のための方法・工夫などを調査するなどして、自分の保健室経営の参考とする。	7～ 10月
4	校内研究会（保健の授業 心の健康） 教頭・保健主事に呼びかけて、保健室での児童生徒への指導の様子を見てもらい、「子どもと共に創る」という観点から分析を行い、心のケア等の成果と課題を明らかにする。	11月
5	自己課題の見直し 自己課題の達成状況を振り返り、校長、教頭と相談し報告書を作成する。	2月



## 第五部

### 提出書類(教諭用・養護教諭用)

各書類作成の際の様式及び資料（※資料については目次参照）は、  
校支援→グループウェア→ライブラリ→225 長野市教育センター手引き・様式集  
→03 キャリアアップ研修Ⅱからダウンロードすることができます。

#### 1 提出書類記入上の注意及び書類提出に係る留意事項

##### (1) 対象者カード（評価案）について

- ア 校長は対象者の、教科指導、学級経営、生徒指導等についての自己評価や、教頭、教務主任等の意見を参考にして評価し、それをもとに対象教員の研修課題を明確にして所定の欄に記入する。
- イ 小・中学校長は、対象者カード（様式1）を評価案として長野市教育センター研修・研究担当に5月21日（木）までに校支援文書管理機能にて提出する。

様式1 キャリアアップ研修Ⅱ対象者カード（評価案） 5月21日（木）締め切り

##### (2) 研修計画書について

- ア 対象者は、対象者カードに基づき、研修テーマ（自己課題）を設定する。
- イ 校長は、対象者の研修テーマの設定理由を聴取し、校内研修・校外研修内容を立案する。研修内容の欄には、実施予定の時期も記入する。（例：7/5 校内授業公開 等）
- ウ 小・中学校長は、キャリアアップ研修Ⅱ計画書（案）（様式2）を長野市教育センター研修・研究担当に5月21日（木）までに校支援文書管理機能にて提出する。
- エ 長野市教育委員会は、校長から提出されたキャリアアップ研修Ⅱ計画書（案）を検討し、当該校の校長に研修計画書として通知する。（当該校へ研修計画書として1部送付、市教育センター1部保管）

様式2 キャリアアップ研修Ⅱ計画書 5月21日（木）締め切り

##### (3) 研修報告書について

- ア 校長は、対象者との面談を通して、年間の校内研修、校外研修の実施状況をキャリアアップ研修Ⅱ報告書に記入し、本研修が対象者の今後の研修に生かされるように指導・助言する。
- イ 小・中学校長は、キャリアアップ研修Ⅱ報告書（様式3）を、長野市教育センター研修・研究担当に2月12日（金）までに校支援文書管理機能にて提出する。

様式3 キャリアアップ研修Ⅱ報告書 2月12日（金）締め切り

##### (4) 猶予について

校長は、対象者が健康上の理由等でキャリアアップ研修Ⅱの猶予を希望するときは、校長の意見を添えて、キャリアアップ研修Ⅱ猶予願（様式4）を長野市教育センター所長に4月3日（金）までに市内メール便で1部提出する。

様式4 キャリアアップ研修Ⅱ猶予願い 4月3日（金）締め切り

#### (5) 欠席について

校長は、対象者が健康上の理由等でキャリアアップ研修Ⅱ各研修の欠席を希望するときは、速やかにその旨を長野市教育センター研修・研究担当へ通知するとともに、指定研修講座欠席（遅刻・早退）届を長野市教育センター所長に市内メール便で1部提出する。

指定研修講座欠席（遅刻・早退）届

#### (6) 社会体験研修について

- ア 社会体験研修は、指定された研修場所から対象者自身が研修場所を選定し、連絡や準備を整えて、夏期休業中に実施するものとする。
- イ 小・中学校長は（様式5）により、社会体験研修実施計画書を作成し、6月26日（金）までに長野市教育センター研修・研究担当に校支援文書管理機能で提出する。

様式5 社会体験研修実施計画書 6月26日（金）締め切り

- ウ 小・中学校長は、対象者の社会体験研修への参加が終了した日から1ヵ月以内に、（様式6）により、社会体験研修実施報告書を作成し、長野市教育センター研修・研究担当に校支援文書管理機能で提出する。

様式6 社会体験研修実施報告書 研修終了後1ヵ月以内

#### (7) 研修の休止・再開について

- ア 対象者が健康上の理由等により、指定された年度途中で研修を継続することができないと判断する場合、直ちに長野市教育センターに連絡し、校長は、指定研修休止願（様式7）及びキャリアアップ研修Ⅱ報告書（休止者用）（様式8）を長野市教育センター所長に市内メール便で1部提出する。

様式7 指定研修休止願

様式8 キャリアアップ研修Ⅱ報告書

- イ なお、翌年以降、研修を再開する場合、校長は、指定研修再開願（様式9）を長野市教育センター所長に市内メール便で1部提出する。

様式9 指定研修再開願

研修休止の例

- ◇産、育休
- ◇療休、介護休暇等
- ◇健康上、受講が不可能な場合
- ◇その他、長野市教育委員会が認めた場合

#### (8) 長野市教育委員会が提出する書類などについて

長野市教育委員会は研修の企画推進を行うとともに、対象者の評価・研修計画・研修報告について検討し、キャリアアップ研修Ⅱの充実を図る。

## 2 キャリアアップ研修Ⅱ 関係書類の提出及び校内保管について

### (1)関係書類の提出について

作成及び提出者	提出書類名	様式	提出期限	部数	提出先
長野市立 小学校長 中学校長	キャリアアップ研修Ⅱ 猶予願【該当者のみ】	様式 4	4 月 3 日(金)	1 部	長野市教育 センター
	キャリアアップ研修Ⅱ 対象者カード (評価案)	様式 1	5 月 21 日(木)	校支援 文書管理	
	キャリアアップ研修Ⅱ 計画書 (案)	様式 2	5 月 21 日(木)	校支援 文書管理	
	社会体験研修実施計画書	様式 5	6 月 26 日(金)	校支援 文書管理	
	社会体験研修実施報告書	様式 6	研修終了後 1 ヶ 月以内	校支援 文書管理	
	キャリアアップ研修Ⅱ 報告書	様式 3	2 月 12 日(金)	校支援 文書管理	

長野市教 育委員会	キャリアアップ研修Ⅱ 対象者カード	様式 1	6 月	1 部	関係学校長
	キャリアアップ研修Ⅱ 計画書	様式 2	6 月	1 部	

### (2)校内保管の書類について

キャリアアップ研修Ⅱにかかわる次の書類は5年間校内で保管する。

- 様式 1・2・3・5・6 (3・5・6はコピー)
- 「校内研修実施メモ」等、校内研修の実施の記録 (コピー可)
- 令和 8 年度学校年暦・月暦・週暦 (コピー可)

(資料)

## キャリアアップ研修Ⅱ 校内研修実施メモ

No.	研修項目	実施日	指導者、協力者 等
		月 日	
実施内容			
指導内容			
研修成果と今後の課題			

※上記参考例のような「校内研修実施メモ」等を蓄積していくことにより、対象者の研修成果と今後の課題を明確にして、校内研修の充実を図るようにする。(20日分の「校内研修実施メモ」等の校内研修実施の記録は5年間学校で保存する)

令和 年 月 日

様

学校

校長

印

## 令和 8 年度 長野市立小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ 社会体験研修受け入れのお願い（依頼）

時下、貴所におかれましてはますますご清祥のことと拝察申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、長野市教育委員会では、小・中学校に在籍する教職経験 10 年目の教員の研修として、社会体験研修を行っています。先に内諾をいただきましたとおり、県教育を担う中堅教員の研修にお力添えをいただきたく、下記のとおりお願い申し上げます。

## 記

- 1 趣 旨 地域社会（長野市内）の異業種での接遇研修を通して、広い視野から自己課題を把握し、今後の教員としての自分のあり方に生かす。
- 2 日 時
- 3 場 所
- 4 内 容
- 5 研修教員名
- 6 その他

長野市立〇〇学校  
 研修教員 〇〇 〇〇  
 住 所  
 電 話  
 E-mail

令和 年 月 日

様

学校 校長

印

令和8年度 長野市立小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ 社会体験研修受け入れについて（お礼）

貴所におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度実施いたしました本校職員のキャリアアップ研修Ⅱ「社会体験研修」の際には、急な  
お願いにもかかわらず快く受け入れていただきありがとうございました。

おかげさまで、たいへんに貴重な体験をさせていただき、無事終了することができました。皆様  
ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

長野市立〇〇学校  
研修教員 □□ □□  
住 所  
電 話  
E-mail

## キャリアアップ研修Ⅱ 学習指導案の形式と例（教諭用）

令和○年度 長野市立小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ⑤授業研究（授業公開）

長野市立しなのき中学校 対象者番号○○ 氏名 ○○ ○○

## Ⅰ 学校がめざす子どもの姿

日常の授業の充実 みんなで創る授業→ねらいを明確にしたわかりやすい授業



## Ⅱ 自己課題

キャリアアップ研修Ⅱに際し、「生徒が主体的に自分の思いや考えを表現するための指導や支援のあり方」というテーマを設定した。何でも教師がお膳立てしたり、一方的に指示を出したりするのではなく、生徒たちが自ら考え、友と伝え合い、協働していく姿を目指したい。

1年1組の生徒は、日常生活の中で困っている友の存在に気付くことができる。また、授業では意欲的に課題に取り組むことができる。一方で、自分の思いを表現することが苦手で、友にうまく伝わらなかったり、自分の考えを発表する場面で戸惑ってしまったりする姿もある。

そこで、授業や生徒会活動、学級活動など日常のあらゆる場面で、自分の思いや考えを、自分の言葉で、自分から発信できる生徒を育てていきたい。そして、互いの思いや考えを尊重し合える、開かれた安心感のある学級集団にしていきたい。



## Ⅲ 自己課題に基づいた本時における工夫点や留意点

「作品に込められた筆者の思いについて自分の考えもち、友と伝え合う」というゴールを明確にし、ゴールに迫るための学習の見通し（プロセスイメージ）を全体で共有できるようにする。

個人追究で自分の考えをはっきりとてたところで、4人程度の小グループにし、積極的に意見交換できるようにする。その際には、自分の考えと友の考えの「共通点」と「相違点」に分け、意見交換後に自分の考えをさらに練り上げられるようにする。

## Ⅳ 学習指導案 第1学年 国語科 指導案

授業時間：令和○年 ○月○日（○） 10：45～11：35

研究会時間： 11：45～12：35

授業学級：1年1組 計32名

授業者：○○ ○○

## 1 単元名 「76年後の私たちへ……」

教材名 「大人になれなかった弟たちに……」 米倉 斉加年（「国語1」 光村図書）

## 2 単元設定の理由

1年1組の生徒は、文学的文章の学習において、これまでに「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を根拠にしてとらえること」を学んできた。学習活動を通して、行動

描写や情景描写に着目しながら読み進めることはできるようになった。しかし、自身の経験と結び付けて考えたり、筆者の思いや考えに対して自分の考えをもったりすることは苦手であり、作品を十分に読み深めるところには至っていない。

本単元では、物語の読み取りに終始せず、読み取った上で「作品に込められた作者の思いについて自分の考えをもち、友と伝え合う」ことを通して、自分の考えを確かなものにする力を育てたい。そのために、自分の考えと友の考えを比較して、共通点や相違点を明らかにしたり、相違点からさらに自分の考えを練り上げたりできるようにしたい。

本教材「大人になれなかった弟たちに……」は、筆者の米倉斉加年自身が経験した事実が描かれている。戦争の中で必死に生きようとした家族の姿と、筆者の深い悲しみと憤りが、読み手の心に刻み込まれる作品である。生徒は「僕」の思いに寄り添い、共感しながら内容を読み取り、それをもとに自分の考えをもつことができると考え、本単元を設定した。

### 3 単元の目標

- (1) 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法について理解することができるようにする。  
〔知識及び技能〕（(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 オ）
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるようにする。  
〔思考力、判断力、表現力等〕（C 読むこと イ）
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするようにすることができるようにする。  
〔思考力、判断力、表現力等〕（C 読むこと オ）
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
〔学びに向かう力、人間性等〕

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
①比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解している。 ((1) オ)	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C (1) イ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C (1) オ)	①進んで登場人物の心情変化等を捉え、考えを伝え合おうとしている。

### 5 単元の展開（全5時間）

時	主な学習活動	○主な指導や支援	評価
一次 (1)	1 作品を通読し、話の展開や内容の大体を捉える。	○太平洋戦争について知っていることを尋ねる。 ○作品を通読する。 ○最後の一文に着目した生徒の声を全体場で位置付ける。	〔学びに向かう力①〕 ワークシート 発言・つぶやき



二次 (2・3)	2 場面ごとに分け、描写に注目して「僕」や「母」の心情を捉える。	○「僕」の心情が分かる部分に線を引くように促す。 ○文末の特徴や表現技法について取り上げ、その効果について考え合う場を設定する。	〔思・判・表①〕 ワークシート 〔知・技①〕 発言・つぶやき
三次 (4・5)	3 最後の一文に込められた筆者の思いは何かを考える。	○なぜ「弟の死」と「ひもじかったこと」が同列なのか問う。 ○なぜ「母」という言葉がないのか問う。	〔思・判・表②〕 ワークシート 〔学びに向かう力①〕 表情・つぶやき
	4 自分の考えを練り上げ、この単元での学びを振り返る。	○4人グループになり、自分と友の考えの共通点と相違点を整理するように提案する。 ○個人で考えを練り上げる時間を十分に確保する。 ○全体で共有する場を設定する。	〔思・判・表②〕 ワークシート

## 6 本時案

### (1) 主眼

行動や情景の描写から「僕」の心情を捉えた生徒たちが、最後の一文に込められた筆者の思いに迫る場面で、グループで考えを伝え合い、友との共通点と相違点を整理することを通して、作品に込めた筆者の思いについて他の視点からも考えることができる。

### (2) 本時の位置（全5時間中第4時）

前時：弟の死に対する、「僕」の悲しみ、憤り、無念さを捉えた。

次時：作品に込めた筆者の思いについて自分の考えを練り上げ、自分の言葉でまとめる。

### (3) 指導上の留意点

- ・意見交換をしやすくするために、4人程度の小グループで活動を行う。
- ・一方的に考えを言い放つのではなく、共通点や相違点を明らかにしたり、質問をし合ったりしながら進められるように、活動に入る前に「大事なポイント」として黒板に示す。

### (4) 展開

段階	学習活動	・予想される生徒の反応	○教師の支援〔評価〕	時間
導入	1 前時を振り返り、学習問題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弟の死が「僕」にとって本当につらく、悲しいものであったことが分かった。</li> <li>・やっぱり前回の「弟を棺に入れ、母が初めて泣く場面」だと思う。</li> <li>・最後の一文かな。「一生忘れません」ってすごく強い言葉だから。</li> </ul>	○前時の振り返りの記述を紹介する。 ○「筆者の思いはどこに一番強く出ていると思いますか」と尋ねる。	5
		学習問題 筆者は作品にどんな思いを込めたのだろうか。		



終 末	5 本時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の一文は、今まで読み取ってきたことの全てが集約されていることが分かった。筆者の思いが一番強く出ている。</li> <li>次回は自分の考えを練り上げ、確かなものにしたい。</li> </ul>	○今日の授業で分かったことや学んだこと、考えたこと、次回どうしたいかを書くように促す。	5
--------	------------	---	---	---

(5) 授業研究討議の柱

- ・本時の子どもの姿より めざす子どもの姿と合わせて  
(小グループで考えを伝え合い、共通点と相違点を整理する活動を仕組んだことは、主体的に自分の考えを表現することに有効だったか。)
- ・他教科や授業以外の場面で、どのようにめざす子どもの姿を実現させていくか。
- ・授業者の支援の良さと課題、今後の支援の方向性について